

 フジ日本精糖株式会社

証券コード：2114

第 **100** 期
株主通信

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日





代表取締役社長
曾我 英俊

取締役会長
櫻田 誠司

株主の皆様におかれましては、平素よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第100期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

この一年、ロシアのウクライナ侵攻が長期化するなか、原材料・エネルギーコストの高騰による物価上昇、世界的な金融引き締め、円安など我々の事業にとって厳しい環境が続きました。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大が漸く収まり、国内だけでなく、世界的に経済活動が戻る兆しが見えたことは、まさに一筋の光明と言ってよいと思います。

第100期の当社業績は、精糖事業においては増収減益、機能性素材事業においては増収増益、厳しい環境下ではありましたが、当社グループ全体として増収増益を果たすことができました。

日本、アジアを取り巻くさまざまな地政的課題、世界的なサプライチェーンの不具合、金融不安、気候変動などリスクは存在しているものの、新型コロナウイルスの一定の収束がもたらす、ヒト・モノの動きの回復、インバウンド消費の復活などが期待されます。当社としても、精糖事業、機能性素材事業、全ての事業に亘って、未来に希望を持ち、事業拡大に臨む一年にしたいと考えております。

今般、当社では、当社のパーパスを「食を科学し世界をパワフルに!」と定義しました。パーパスを実践し、企業活動を通して、社会課題の解決を図り、取引先、そして社会から信頼を獲得し、

企業価値を向上させてゆくつもりです。

さて、私儀、5期5年の間、社長を務めさせていただきましたが、2023年6月23日の定時株主総会終了後の取締役会において、会長に就任し、曾我 英俊 取締役が社長に就任いたしました。

社長在任中におきましては、精糖事業に次ぐ事業の柱を育成すべく、グループ一丸となって、非砂糖分野の事業拡大という基本戦略を推し進め、食物繊維イヌリン等、機能性素材事業の安定化、連結子会社ユニテックフーズ株式会社における各種事業拡大、その他海外を中心に事業の多角化に取り組んでまいりました。第100期においては、非砂糖事業全体の売上高は、会社全体の売上高のほぼ半分に達し、一定の基礎は出来上がりつつあると思っておりますが、さらなる拡充が必要で、「道半ば」という所であると考えております。

新社長には、当社が、引き続き、中核既存事業だけにとどまることなく、世の中の変化に対応し、新たな素材・商品・事業に挑戦して、「夢のあるたくましい会社」を目指す当社の未来の青写真を描いていただきたいと思っております。

株主の皆様におかれましては、引き続き新社長へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年6月
取締役会長 櫻田 誠司

地に足を付け、 両利きのバランス経営を実践。

代表取締役社長 曾我 英俊

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、2023年6月23日開催の第100回定時株主総会ならびに取締役会よりご承認いただき、私、曾我英俊を代表取締役社長とする新経営体制を発足しました。ここに社長就任の抱負を述べさせていただくとともに、当社第100期(2022年4月1日~2023年3月31日)の営業状況をご報告し、さらなる成長への取り組みをご説明申し上げます。

企業はさまざまな課題への対応が求められ、経営判断の難しさが増えています。状況に迅速かつ的確に対応し、困難を克服していくためには、社員の創意工夫と変革への意思が不可欠です。社員ひとり一人の活躍と成長を促進し、モチベーションを高める会社づくりに尽力していく考えです。

そして砂糖分野で築いてきた強固な基盤を維持・強化しつつ、非砂糖分野における成長を加速させ、地に足を付けて両利きのバランス経営を実践してまいります。

Q 2023年3月期の営業状況をご説明願います。

A 厳しいコスト環境のなか、期初の計画を上回る形で増収・増益。過去最高業績を更新しました。

この1年間は、コスト環境の悪化に見舞われたものの、「イヌリン」を中心とする機能性素材事業の好調が牽引し、期初の計画を大幅に上回る形で増収・増益を遂げました。

精糖事業は、コロナ禍の影響が緩和されて製品の荷動きが活況となるなか、海外原糖相場の上昇を受け、製品出荷価格を引き上げましたが、エネルギー・物流費等のコストアップをカバーし切れず、増収ながら減益となりました。

機能性素材事業は、引き続き「イヌリン」が国内で新規採用を獲得し、タイおよび周辺国における販売も順調に増加したことに加え、連結子会社のユニテックフーズ株式会社によるコンビニエンスストア商材用のゼラチン・ペクチン等が販売を伸ばし、売上高・利益の拡大に貢献しました。

結果として連結業績は、売上高226億77百万円(前期比12.8%増)、営業利益18億14百万円(同13.1%増)、経常利益21億24百万円(同10.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益16億72百万円(同3.6%増)となり、過去最高業績を更新することができました。

Q 社長就任の抱負をお聞かせください。

A 社員ひとり一人の活躍と成長を促進し、モチベーションを高めていく会社づくりに尽力します。

1981年、双日株式会社の前身である日商岩井株式会社へ入社した私は、双日グループで2011年から食料関連事業に携わり、海外法人の経営も含め、多くの経験を重ねてきました。2018年に双日食料株式会社の社長に就任した後、2021年よりフジ日本精糖の取締役を務めています。

製糖業界や食料ビジネスに関わるなかで、フジ日本精糖については、砂糖分野と非砂糖分野のバランスを的確にとることで環境変化に対応し、さらに可能性を拡げつつある会社と捉えてきました。社風は、コミュニケーションの良さと堅実さが感じられる一方、「イヌリン」の海外生産・販売が示すようなチャレンジングな姿勢が成果を上げており、それらが企業文化として根付いていると思います。

私は、これまでの職務経験を通じて、企業が持続的成長を実現する上で「人財」こそが最も大切な要素であると考えています。近年、社会の変化が激しく先行き不透明な時代となり、

Q 新たな事業展開に関し、どのような動きが進んでいますか？

A 非砂糖分野の新たな柱づくりを推進中。本社跡地のビジネスホテルも開業を控えています。

ユニテックフーズ株式会社が開発し、双日株式会社ならびにロイヤルホールディングス株式会社とともに進めている植物肉「NIKUVEGE（ニクベジ）」の事業展開は、ユニテックフーズ株式会社の子会社として設立した株式会社Tastableを中心に推進体制を整え、取り組みを開始しました。健康志向のお客様のニーズを捉えるアプローチで、ホテルやレストラン、空港施設などへ徐々に採用を拡大しています。中長期で成長を目指す事業として、今後は製造能力の確保やマーケティングに注力し、海外販売への布石も打ってまいります。

また2022年10月に業務提携を締結した当社とユニテックフーズ株式会社、Cargill (CSST Asia) 社（以下カーギル社）の3社による協業は、カーギル社の素材供給能力とユニテックフーズ株式会社のブレンドノウハウを組み合わせ、相互にシナジー効果を生むべく展開を模索中です。商材の開発・製造と国内販売をユニテックフーズ株式会社が担い、カーギル社のネットワークで海外に販路を拡げていく考えです。

もう一つ新たな動きとして、中央区日本橋茅場町の本社跡地に建築中のビルディングが間もなく竣工し、株式会社東横インのビジネスホテルを2023年9月に開業する予定です。不動産事業の安定収益源となり、業績寄与が期待できます。

Q 中期経営計画の進捗と今後の目標をご説明願います。

A 非砂糖分野が売上全体のほぼ半分に拡大。三国間貿易の実績も着実に伸び続けています。

当社の中期経営計画は、3年後の業績目標を每期ローリング形式で定め、基本戦略として「非砂糖分野のさらなる拡大」「輸出入・三国間貿易による海外への挑戦」「社員教育の強化」「ESG経営の推進」の各テーマに取り組んでいます。

このうち非砂糖分野に関しては、特に「イヌリン」の躍進が目覚ましく、2023年3月期は、精糖事業以外の売上高比率が48.5%に拡大し、非砂糖分野が売上全体のほぼ半分以上を占めるまでになってきました。三国間貿易についても2023年3月期は、タイから日本以外へ販売する「イヌリン」の数量が前期比15%増の伸びを示しています。

今後は事業戦略室を中心に、非砂糖分野の新たな柱を確立する取り組みを加速し、収益の多様化を図ります。「イヌリン」については、東南アジアに加え、将来的には北米で「イヌリン」の販売を展開すべく、市場参入の足掛かりを築いていきます。

今回の計画ローリングでは、3年後の2026年3月期連結業績における「売上高270億円」「経常利益22億円」を目標設定しました。なお今期（2024年3月期）は、砂糖および「イヌリン」の価格改定の浸透などを前提として、増収・増益を見込んでいます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 社会課題の解決と企業価値の拡大を同時に実現する「CSV経営」を推進してまいります。

今回の期末配当は、当期業績が好調に推移し、減益予想から増益に転じたことなどを踏まえ、当初予定していた1株当たり14円から増額し、同17円（前期比4円増配）とさせていただきます。2024年3月期の配当は、同30円（前期比13円増配）を予定しています。また、株主優待制度を再開しました。引き続き株主の皆様への利益還元を拡充すべく、さらなる業績の向上に努めてまいります。

このたび社内では、「SDGs推進委員会」のメンバーが中心となり、「夢のあるたくましい会社で、持続可能な社会の実現を目指します。」という言葉に掲げたサステナビリティ基本方針を制定しました。また当社が取り組むマテリアリティ（重要課題）について、「社会に貢献する企業活動の徹底」「地球にやさしい環境の強化・拡大」「人間尊重を基本とした企業文化の形成」の三つを特定しました。

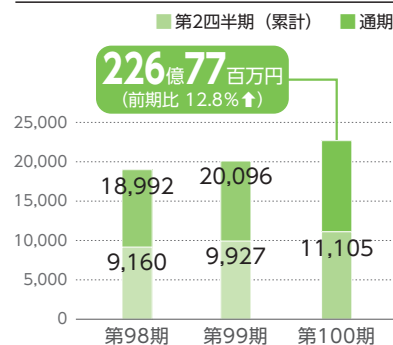
私たちは今後、同方針およびマテリアリティにもとづき、社会課題の解決と企業価値の拡大を同時に実現する「CSV（Creating Shared Value=共有価値創造）経営」を推進し、持続的成長を遂げてまいります。株主の皆様には、これからも長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



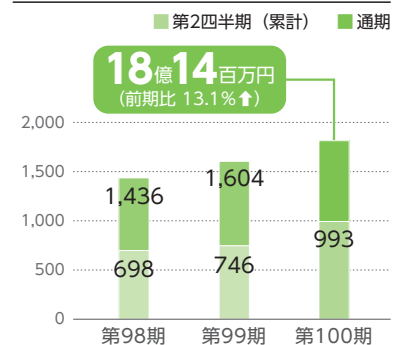
連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

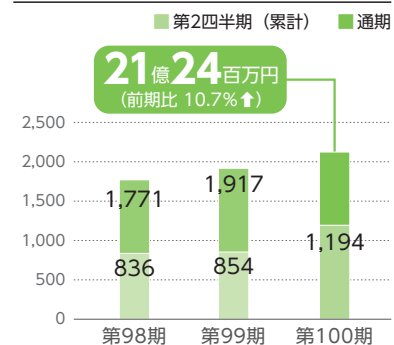
売上高 単位：百万円



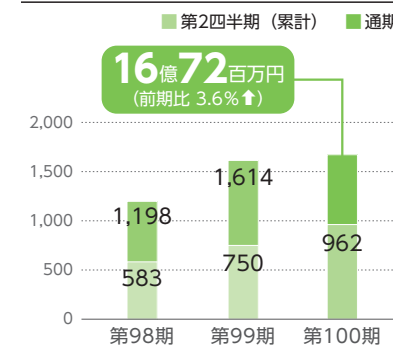
営業利益 単位：百万円



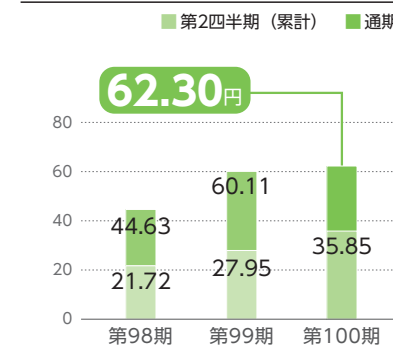
経常利益 単位：百万円



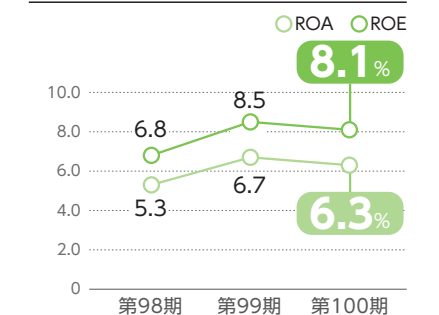
親会社株主に帰属する当期純利益 単位：百万円

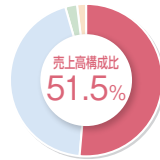


1株当たり当期純利益 単位：円



総資産利益率 (ROA) 自己資本利益率 (ROE) 単位：%





精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況

売上高：11,678百万円
営業利益：1,024百万円

海外原糖市況は、ニューヨーク先物市場が期初19.42セント（1ポンド当たり）で始まり、ロシアのウクライナ侵攻が長期化するなか、世界経済の低迷観測によるリスクオフの動きと、米国の利上げ継続措置によるドル高傾向に加え、実需面ではインドの白糖輸出が旺盛であったことやブラジルの予想以上の増産の報から17.20セントまで下落しました。しかし、その後はインドの白糖輸出に規制が掛かったことで一転して反発となり、EUの減産観測やタイでのサトウキビ圧搾の遅れが材料視され上昇に転じました。世界砂糖需給の見通しも下方修正されたことで、現物供給への懸念が拡大し、22.25セントで期末を迎えました。

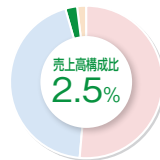
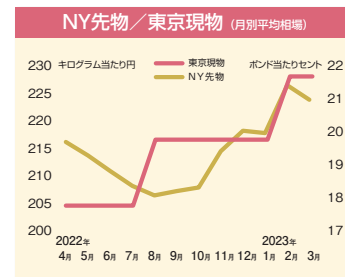
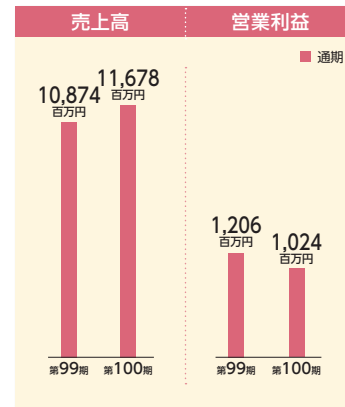
ニューヨーク市場先物相場（セント/ポンド当たり）の動き

期初	高値	安値	期末	平均
19.42	22.36	17.20	22.25	19.35

一方、国内製品市況は期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）204円～205円（上白大袋1キログラム当たり）で始まりましたが、2022年8月に12円、2023年2月に11円上昇し、227円～229円で期末を迎えました。

製品の荷動きとしましては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響がまだ続いておりましたが、飲料・菓子・乳製品関係が年度末に向けて徐々に挽回しました。販売数量は前期に追い付かなかったものの、販売価格上昇により、増収となりました。しかしながら、利益面では販売価格の上昇があったものの、原材料やエネルギーコストを中心に製造コストが大幅上昇し、また、配送運賃の上昇も加わった結果、減益となりました。

この結果、売上高11,678百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益1,024百万円（同15.0%減）の増収減益となりました。



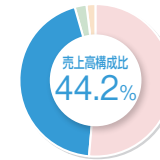
不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況

売上高：573百万円
営業利益：533百万円

売上高573百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益533百万円（同0.2%減）の減収減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献しました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況

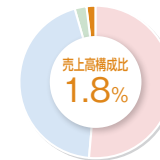
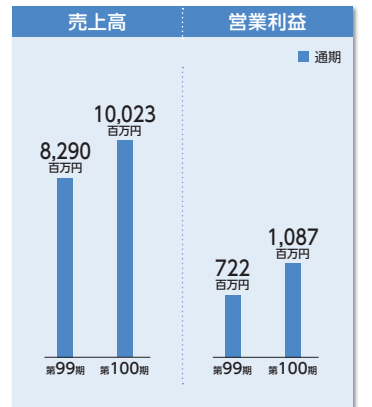
売上高：10,023百万円
営業利益：1,087百万円

機能性食品素材「イヌリン」は、原材料やエネルギーコストが上昇するなか、国内販売において糖質オフ、腸内環境改善の機能性訴求製品の採用増により前期に比べ、販売数量は増加しました。さらに、海外販売においても、販売数量の増加とともに、販売価格の引き上げを行ったことで増収とすることができました。

切花活力剤キープ・フラワーは、昨年の巣ごもり需要の反動により、家庭用製品の販売が減った結果、減収となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、コロナ禍の影響が緩和され、人流が戻ってきたことにより、主にCVS商材向けのペクチン、ゼラチン、コラーゲンなどの主力商品の販売が伸長し、増収とすることができました。

これらの結果、売上高10,023百万円（前年同期比20.9%増）、営業利益1,087百万円（同50.6%増）の増収増益となりました。



その他食品事業

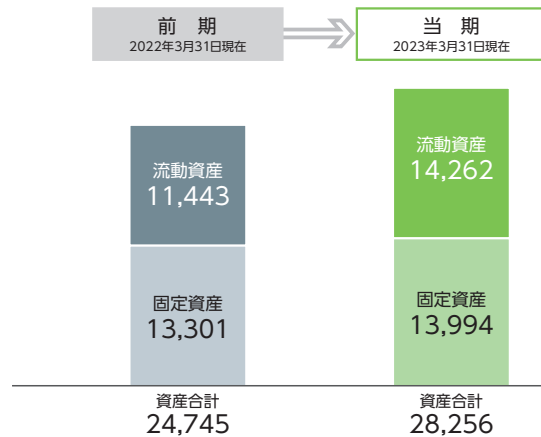
事業内容：タイにおいてパンの製造販売を行っております。

その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、売上高402百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益13百万円（同15.1%減）の増収減益となりました。

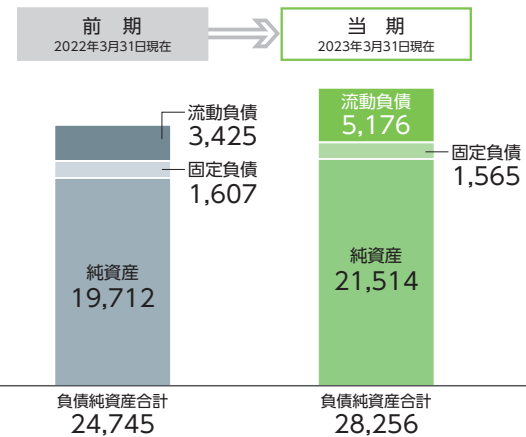


連結貸借対照表

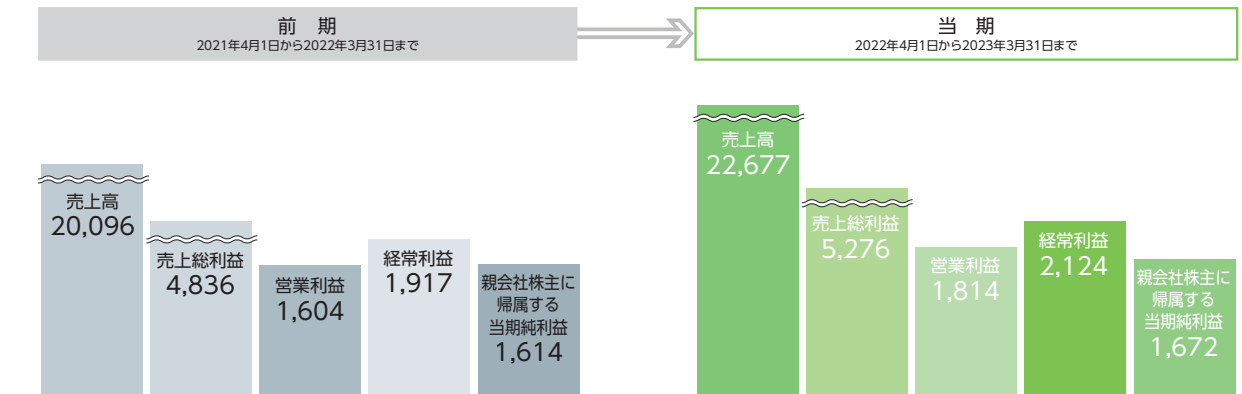
● 資産の部 (単位: 百万円)



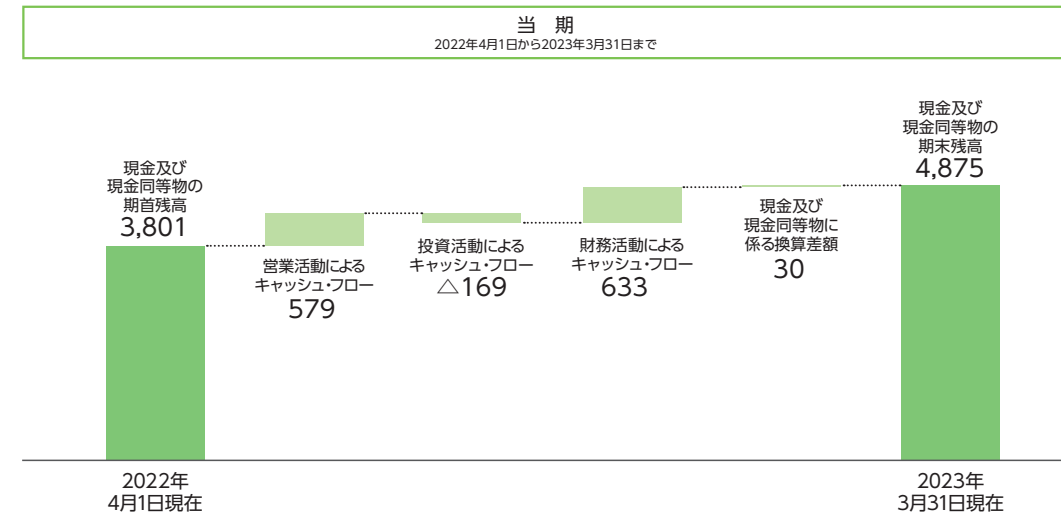
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ24.6%増加し、14,262百万円となりました。これは主として現金及び預金の増加等によるものであります。また、固定資産につきましては、前期末に比べ5.2%増加し、13,994百万円となりました。これは主として投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ51.1

%増加し、5,176百万円となりました。これは主として短期借入金の増加等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前期末に比べ2.6%減少し、1,565百万円となりました。これは主として長期借入金の減少等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ9.1%増加し、21,514百万円となりました。これは主として利益剰余金の増加等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	54名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd. 株式会社Tastable
関連会社	DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. 太平洋製糖株式会社 マ・マー マカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員 (2023年6月23日現在)

取締役会長	櫻田 誠司
代表取締役社長	曾我 英俊
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役執行役員	大橋 高弘
取締役	高橋 明彦
取締役	和田 哲義
取締役	埴原 正和
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役	藤田 世潤
監査役	二宮 照興

執行役員

常務執行役員	大口 真央
上席執行役員	和田 正
上席執行役員	新野 真人
執行役員	斎藤 寛
執行役員	谷津 裕司

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

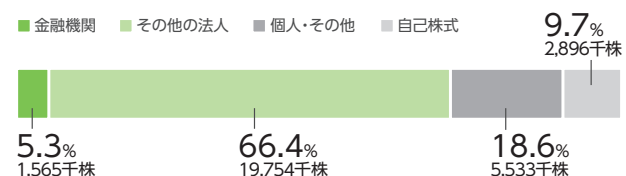
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	15,895名

大株主

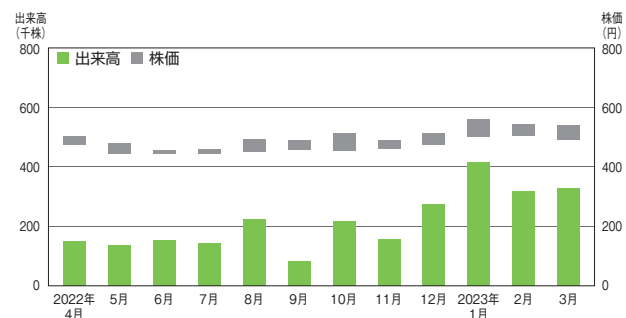
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
和田製糖(株)	2,455	9.1
鈴与(株)	1,902	7.1
豊田通商(株)	1,229	4.6
(株)静岡銀行	792	2.9
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所実績)



フジ日本精糖のサステナビリティ

私たち、フジ日本精糖株式会社の企業理念は、「私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。」というものです。私たちは、この企業理念の実現のため、

- ① 地球にやさしい環境の強化・拡大
- ② 社会に貢献する企業活動の徹底
- ③ 人間尊重を基本とした企業文化の形成

を重要な経営課題の一つとして捉え、従前よりこれらの課題に取り組んでまいりました。持続可能な社会の実現に向けた活動の重要性が一段と増すなか、全社が一丸となってこれらの活動を更に深化させ、サステナビリティ経営を推進することで、持続的な成長を目指してまいります。

重要課題	SDGsとの関連性	主な取り組み
社会に貢献する企業活動の徹底	3 気候変動に具体的な対策を、11 持続可能な消費と生産を実現する、17 パートナーシップを世界に変革を実現させるために	・お砂糖から広がる健康で豊かな暮らし ・サトウキビ由来、食物繊維「イヌリン」の普及
地球にやさしい環境の強化・拡大	2 持続可能なエネルギー、12 持続可能な消費と生産を実現する	・(株)Tastable社での代替肉開発・製造販売事業 ・DAY PLUS (THAILAND) でのロングライフ製菓製パンの製造販売事業
人間尊重を基本とした企業文化の形成	3 気候変動に具体的な対策を、4 質の高い雇用を創出する、5 性別平等を推進する、8 持続可能な成長を創出する	・ストレスチェックの実施 ・通信教育 ・ノー残業デーの推進 ・ヘルスケア研修 ・語学留学プログラム ・女性管理職の登用 ・自己啓発支援 ・育児に関する制度

株主優待制度再開・基準日変更のお知らせ

5月22日開催の取締役会において、株主優待制度を再開することと合わせて、株主優待制度の基準日を変更することにつき決議いたしましたのでお知らせいたします。

対象となる株主様

2023年9月末日時点における当社株主名簿に記載または記録されている100株(1単元)を保有の株主様

優待の内容

株式数	優待の内容 (毎年9月末日時点)
100株以上300株未満保有の株主様	1,000円相当の自社製品
300株以上1,000株未満保有の株主様	3,000円相当の自社製品
1,000株以上保有の株主様	5,000円相当の自社製品

株主優待制度の基準日

変更前: 3月31日(期末) → 変更後: 9月30日(中間期)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
基準日	3月31日 なお、中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL https://www.fnsugar.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にでもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 静岡市清水区吉原 - 「茶の里に朝日」

 **フジ日本精糖株式会社**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号
TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

**UD
FONT**

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。